

山鹿市民医療センター開放型病院広報紙

6月号



Yamaga Medical Center



発行所 山鹿市民医療センター 〒861-0593 熊本県山鹿市山鹿511番地 TEL 0968-44-2185(代) FAX 0968-44-2420(代)
FAX 0968-44-0071(連携室直通)

医療安全対策地域連携のための相互チェックを実施しました

当センターでは、2018年から医療安全対策地域連携加算1の届出をおこなっております。医療安全対策地域連携加算1の施設基準として、他の届出をおこなっている医療機関と連携し、それぞれ少なくとも年1回程度、お互いの医療機関に赴いて医療安全対策に関する評価を相互におこなうことが要件の一つとなっています。



3月6日に阿蘇医療センターから甲斐 豊院長をはじめ医療安全を担当する5名の方にお越しいただき、当センターの医療安全対策の評価をおこなっていただきました。

始めに「医療安全に対する当院の取り組み」と「身体拘束最小化作業部会活動」について発表しました。医療安全相互チェックシートの自己評価をもとに、書類調査にて医療安全管理部門の役割、マニュアルの整備などについて質疑応答がおこなわれました。その後、院内ラウンドにおいて外来・薬剤科・3F病棟の医療安全状況や環境の調査がおこなわれました。最後に、当センターの看護師が認知症看護認定看護師を取得し



たので、甲斐院長からそのメリットや、阿蘇医療センターの認知症ケアチームの活動を織り交ぜながら、分かりやすく紹介していただきました。



今回の訪問調査は4回目となり、お互い和やかな会話の中で当センターが気付きにくい詳細な点についてもアドバイスをいただきました。阿蘇医療センターの皆様には、大変お忙しい中、当センターまでお越しいただき心より感謝しております。相互チェックでの貴重なご意見などを基に医療安全対策の向上に繋げ、今後も阿蘇医療センターとの連携を大切にしていきたいと思ひます。

(文責 医療安全管理室 原田 康恵)

基本理念

いのち

地域住民の生命と健康への貢献

基本方針

山鹿市民医療センターは

- ① 患者さま中心の信頼される医療を行います
- ② 診療機能の充実に努め、質の高い医療を提供します
- ③ 地域の保健、医療、福祉の連携を推進します
- ④ 研修、研鑽に努め医療レベルの向上を図ります
- ⑤ 健全経営に努めます

CONTENTS

医療安全対策地域連携のための相互チェックを実施しました……………	P 1
令和7年度新規採用職員研修を開催しました…	P 2
部門紹介：感染制御室……………	P 2
医療最前線(165)……………	P 3
第62回公開特別講演会のご案内……………	P 3
外来担当医表(6月)……………	P 4

令和7年度新規採用職員研修を開催しました

4月の始めに3日間新規採用職員研修を開催しました。

今年度は薬剤師を始め、診療放射線技師、言語聴覚士、医療ソーシャルワーカー、看護師、事務職と多職種が入職し、総勢22名が研修を受講しました。

新規採用の皆さんと一緒に市民医療センターを盛り上げていきたいと思っています。

朝一番の辞令交付式を終えた直後の緊張した面持ちの中、病院の概要や役割、医療連携、医療安全、感染防止等を受講しました。2日目以降も電子カルテ操作、薬剤、検査、放射線、SPD等幅広い内容となりました。

やはり、新しい風というのは良いもので我々自身も多くの刺激を受け、新たな気持ちで今年度をスタートすることができています。

今回の研修の大きな目的は、「病院」を知ることと「仲間」を知ることです。これからの長い就労人



生の中では、様々な悩みや困難があることと思います。そのような中で仲間の存在というのはとても大きな助けになるものです。

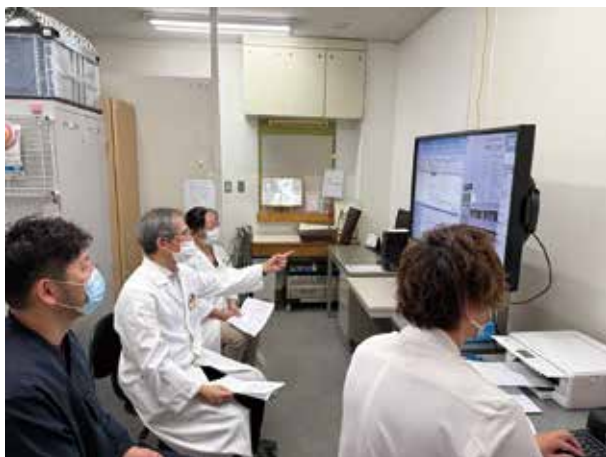
新入職員の皆さんには、心身の健康、そして「笑顔」で山鹿市民医療センターと鹿本地域医療の発展に邁進してもらいたいと思います。

(文責：経営管理課 田尻 祐介)

部門紹介：感染制御室

感染制御室は、院内感染対策を専門的かつ横断的に推進する部門として、医療関連感染の予防・管理およびアウトブレイク対応を担っています。当センターにおける感染対策の中核的役割を果たすと同時に、地域医療機関・介護施設との連携を通じて、包括的な感染管理体制の構築にも注力しています。

当室では、インфекションコントロールドクターや感染管理認定看護師、臨床検査技師、薬剤師による感染制御チーム（ICT）と抗菌薬適正使用支



<ICT/ASTカンファレンスの様子>

援チーム（AST）を編成し、サーベイランス活動、環境ラウンド、職員教育を体系的に実施しています。また、抗菌薬適正使用支援に関しては、電子カルテデータを活用した処方解析やフィードバックを通じて、薬剤耐性（AMR）対策アクションプランにも準じた取り組みを推進しています。アウトブレイク発生時には迅速なコホーティング、環境検査、疫学調査を実施し、感染拡大防止に努めています。

さらに、地域との連携を重視し、地域連携病院や高齢者福祉施設に対する感染対策支援・研修会の開催、感染対策相談への対応、共同カンファレンスの実施など、地域全体の感染管理レベル向上を目的とした活動にも積極的に取り組んでいます。

当室は今後も、エビデンスに基づく実践と、柔軟かつ迅速な対応力をもって、安全で質の高い医療環境の維持に貢献してまいります。

(文責：医療管理部感染制御室

感染管理認定看護師 廣瀬 憲一)

医療最前線 (165)

ACP (Advance Care Planning)

緩和ケア内科 堀 和樹

ACPという言葉をご存知になったことがあるでしょうか。

人生の最終段階における医療、ケアに関する意識調査によると、ACPをよく知っている一般国民は3.3% (2011年) から5.9% (2022年) とわずかに増加していますが、まだまだよく知られていないことが分かります。

ACPとは、「Advance Care Planning」(アドバンス・ケア・プランニング)の頭文字をとったもので、もしもの時のために、自らが大切にしていることや希望する人生の最終段階における医療・ケアについて、前もって考え、家族等の信頼できる人や医療・ケアチーム等と繰り返し話し合い、共有する取り組みのことをいいます。

ACPは、1990年代に生まれ、欧米で発展した概念です。背景として1960年代後半よりアメリカにおいて、患者の意向を踏まえずに一方的に行われる医療への批判が高まり、リビング・ウィルや事前指示書(advance directives: AD)が提唱され、作成が薦められた経緯があります。その後の研究で、法制化によってもADを完成させた患者は少数にとどまり、ADの有無と実際の尊重には関連がなかったということが明らかになりました。そこで終末期医療における患者の意向について、単に相談や書類記載を行うことを目的とするのではなく、これらの結果に至るまでの患者、家族、医療従事

者による話し合いのプロセスを重視するACPが提唱され、世界に広まりました。

日本では、2018年に「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン」が改訂され、ACPに関連した議論がなされるようになり、「人生会議」との呼び名が付けられました。

ACPとリビング・ウィル(日本では「終活ノート」が概念として近い)は異なる概念です。ACPは話し合いの枠組みであり、その過程の中で、患者は自分の人生観や価値観を確認し、今後の見通しに関してどのように理解をしているのか確認した上で、最終的にどのようなケアを希望しているのかを表明することであり、記載だけを行うリビング・ウィルとは大きく異なります。ACPが「話し合いのプロセス」を強調するのは、リビング・ウィルで患者が記述していたとしても、実際に生じた場面は本人が想定していた状況とあまりにかけ離れていて、記載を反映させることが難しかったり、またはそもそも医療者に気付かれていなかったりした場合があり、その反省に基づいているからです。

ACPとは何度も繰り返す必要のあるプロセスであり、人生観、価値観を繰り返し話し合い、周りの人に共有されていることが重要です。それは残された家族や周りの大切な人に贈ることのできる最大のプレゼントと言えるかもしれません。

第62回公開特別講演会のご案内

(日本医師会生涯教育講座 1 単位)

取得カリキュラムコード 番号・コード名
82. 生活習慣

下記により第62回特別公開講演会を開催いたします。
多数ご参加くださいますようお願い申し上げます。

鹿本医師会会長 幸村 克典
山鹿市病院事業管理者 別府 透

記

日時: 令和7年6月20日 (金) 19:00~

形式: ハイブリッド方式(オンライン参加or会場参加)

会場: オンライン参加 / Zoom ミーティング

会場参加 / 山鹿市民医療センター1階医療研修センター

演題: 「免疫療法時代における肝疾患診療の現状~病診連携の重要性」

司会: 山鹿市民医療センター 病院事業管理者 別府 透 先生

演者: 熊本大学大学院 生命科学研究部

消化器内科学分野 田中 靖人 教授

参加費: 無料

【参加要領】 下記参加URL、又は参加QRコードからご参加ください。

(参加URL): <https://zoom.us/j/91463090462>

(参加QRコード) ⇒

ミーティング ID: 914 6309 0462

パスコード: 968061



※ミーティングに参加される際の【名前】欄には、必ず「氏名」と「医療機関名」をご入力ください。

※快適にご視聴いただくため、イヤホンやヘッドセットのご使用をお勧めいたします。

お問合わせ先 📍 山鹿市民医療センター

地域医療連携室 西田、古家

TEL:0968-44-2185 FAX:0968-44-0071

※共催: 鹿本医師会

山鹿市民医療センター医療研修センター運営委員会

外来担当医表

6月

診療科名	月	火	水	木	金
呼吸器内科	※ 古川 嗣大	※ 赤池 公孝	※ 後藤 英介	—	※ 後藤 英介
腫瘍内科	—	—	—	—	※ 宮本 英明
消化器内科	中垣 貴志	竹熊 梨祐	本原 利彦	中垣 貴志 竹熊 梨祐	本原 利彦
内分泌・代謝内科	川崎 修二	—	川崎 修二	—	川崎 修二
循環器内科	大庭 圭介 清水 博	大庭 圭介 清水 博	※ 中山 智子 清水 博	清水 博 大庭 圭介	大庭 圭介 清水 博
整形外科 (紹介外来制)	横田 秀峰 樽美 備一 山口 裕介	工藤 智志 湯本 みずほ 樽美 備一 / 山口 裕介	手術 (担当医)	工藤 智志 横田 秀峰 湯本 みずほ	手術 (担当医)
外科	別府 透 石河 隆敏 織田 枝里	手術 (担当医)	別府 透(新患のみ) 石河 隆敏 / 増田 稔郎 辛島 龍一 / 織田 枝里	手術 (担当医)	別府 透 増田 稔郎 辛島 龍一
乳腺外科(予約制)	—	※ 富口 麻衣	—	—	—
泌尿器科	中村 圭輔	再来のみ	今藤 淳之助	※ 神波 大己 教授	中村 圭輔
小児科	小澄 将士	小澄 将士	小澄 将士 (午後：予防接種)	小澄 将士(午前) ※ 石井 真美(午後)	小澄 将士
*小児科の午後は、16:00受付終了となります					
耳鼻咽喉科(予約制)	—	非常勤医師	—	非常勤医師	—
眼科(予約制)	手術	特殊再来のみ	古島 京佳	古島 京佳	古島 京佳(午前) 非常勤医師(午後)
産婦人科	非常勤医師(午後) (受付14:00~16:00)	※ 片渕 美和子(午後) (受付13:00~16:30) 婦人科・思春期・更年期	—	非常勤医師(午前) ★ 非常勤医師(午後) (受付14:00~16:00)	非常勤医師 (午前)
緩和ケア内科(予約制)	織田 枝里	堀 和樹	織田 枝里	堀 和樹	—
総合診療科	吉岡 明子	—	吉岡 明子	—	吉岡 明子
救急外来	泌尿器科医(午前) 吉岡 明子(午後)	吉岡 明子	大庭 圭介(午前) 清水 博(午後)	奇数週：担当医 偶数週：吉岡 明子	外科医(午前) 消化器内科医(午後)
健診	高木 茂	高木 茂	高木 茂	高木 茂	高木 茂

◎診療受付時間は、8:30(予約再診の方は8:00)~11:00

◎当日の受診に関する相談を除くお電話は、平日14時から17時までが受付となります。

※ 非常勤医師です。 ★ 第2、第4のみ診療となります。

特殊・専門外来【予約制】

6月

名 称	担 当 医 等	実 施 日	診察場所
外 来 化 学 療 法	担 当 医	毎週 火曜・水曜	各 診 療 科
	※ 宮 本 英 明	毎週 金曜（がん薬物療法専門医）	
禁 煙 外 来	坂 田 和 子	毎週 月曜（午後）	Aブロック
睡 眠 時 無 呼 吸 外 来	坂 田 和 子	毎週 火曜・木曜（午後）	
小 児 科 予 防 接 種	小 澄 将 士	毎週 水曜（受付時間13:30～16:00）	
ス ト ー マ 外 来	担 当 医	毎月 第3水曜（午後）	Bブロック
P E G 外 来	担 当 医	毎月 第2水曜（午後）	
セカンドオピニオン外来	各専門医が担当します。詳細はホームページをご覧ください。 予約については地域医療連携室にお尋ねください。		

◎急患の場合は、この限りではありません。

ご注意：学会等の都合で変更になる場合があります。

◆最新の担当表は、ホームページをご覧ください。

山鹿市民医療センター

〒861-0593 熊本県山鹿市山鹿511番地
 TEL 0968-44-2185(代) FAX 0968-44-2420(代)
 FAX 0968-44-0071(連携室直通)
<http://yamaga-medical-center.jp>